

思ひ出

でも もう一度だけは 逢つて みたい
うらみのたけを のべて みたい
思ひ出も だんだんうすれた あいつだけれども その心だけは 変らない
黒く 細い 枯枝や梢に 星が いっぱい ひつかかつてる
歩くと 星が 流れる やうだ
あいつと 歩いた 冬の夜は 今晚の具合と そつくりだ
胸には 何か 辛さを 持ち
片手で あいつと 腕を 組み
夜空に 白い 冬の雲が 魔物のやうに 動いてゐたつて
あいつの 感じは一言で 言へば
夕暮の やうな 女だつた